



GUNBOH

群 萌

第206号 2021年9月10日

発行所 全国化学労働組合総連合

〒105-0021 東京都港区東新橋2-16-1

ルースビル402

TEL 03 (6452) 8806

FAX 03 (6452) 8807

発行責任者 寺前 敦司

編集者 化学総連事務局

gs03@kagaku-s.com



～巣ごもりの効果は～

全国化学労働組合総連合 会長 寺前 敦司

二酸化炭素(CO2)の排出を抑制する動きが活発です。2020年10月、臨時国会での所信表明演説にて、菅総理大臣は「2050年までに、温室効果ガス(GHG)の排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル(CN)、脱炭素社会の実現を目指す」と宣言し、さらに2021年4月の気候サミットでは、2050年CNと総合的で野心的な目標として、「2030年度において、GHGの2013年度からの46%削減を目指す」ことを宣言しました。8月には国連の組織であるIntergovernmental Panel on Climate Changeが、第6次評価報告書のうちの自然科学的根拠の部分について報告し、「人間の影響が大气、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない。」とした上で、世界の平均気温について、「少なくとも今世紀半ばまでは上昇を続ける。向こう数十年の間にCO2及びその他のGHGの排出が大幅に減少しない限り、21世紀中に、地球温暖化は1.5℃及び2℃を超える。」と、警鐘を鳴らしています。

本年4月に国立環境研究所が公表した日本国温室効果ガスインベントリ報告書(報告書)によると、2019年度のGHGはCO2換算で1212百万トン。その中でも化石資源に由来するCO2は1029百万トンに上っています。30年度の▲46%を達成するためには、化石由来のCO2を680百万トンにまで絞り、全体の排出量を816百万トンに抑えるのが我が国の方針案です。

でも、化石由来のCO2排出をあと349百万トン抑えろと言われても、ピンとこないですよ。そこで、ふと思ったのです。2020年度ならどうなるのだろうと。テレワーク、ステイホーム、外出・出張・帰省自粛が喧伝されて、国民の多くが出かけることを我慢し、巣ごもりなる言葉で形容されたあの一年間なら、化石エネルギーの消費が激減し、680百万トンなんて軽く達成したんじゃないのかなと。

そこで毎月発行されている経済産業省の資源・エネルギー統計と財務省の貿易統計から、主要な化石資源の供給量をエネルギー単位(PJ)に変換し、19年度と比較してみました(表)。すると、石炭を筆頭に大きく減少していることが見てとれます。それぞれの背景を考えると、石炭は発電向けも減少しましたがそれ以上に銑鉄の生産量が落ちたこと、ジェット燃料は国際線需要がほぼ消滅したこと、軽油は観光バス需要の激減や定期路線が縮小したこと、ガソリンは遠出を自粛したことなどがあげられます。重油からLNGまでは、発電用石炭と同様にエネルギー需要の

減少が想定される一方で、灯油は19年度が暖冬だったことによる反動で平年に戻りました。これらを合算すると19年度比で▲1336PJ。それを過去10年分の供給量(PJ)と化石由来CO2(百万トン)とのグラフ(図)から推計すると、20年度の化石由来のCO2排出は914百万トンと大きく減少しています。正確なところは来年4月の報告書を待たねばなりません、あの巣ごもり生活は、間違いなくこの10年で最大のCO2抑制効果を生み出したものの、残念ながら80百万トンには遠く及ばなかったと言えるでしょう。

表 各種化石エネルギー供給量の増減

| | 19年度 | 20年度 | 増減 |
|---------|-------|-------|--------|
| 石炭 | 4,874 | 4,512 | -362 |
| ジェット燃料 | 572 | 236 | -336 |
| 軽油 | 1,625 | 1,323 | -303 |
| ガソリン | 1,742 | 1,591 | -151 |
| 重油 | 1,107 | 1,009 | -99 |
| ナフサ | 1,417 | 1,343 | -74 |
| LPG | 720 | 674 | -46 |
| LNG | 4,184 | 4,177 | -8 |
| 灯油 | 534 | 576 | 43 |
| 単位 (PJ) | | | -1,336 |

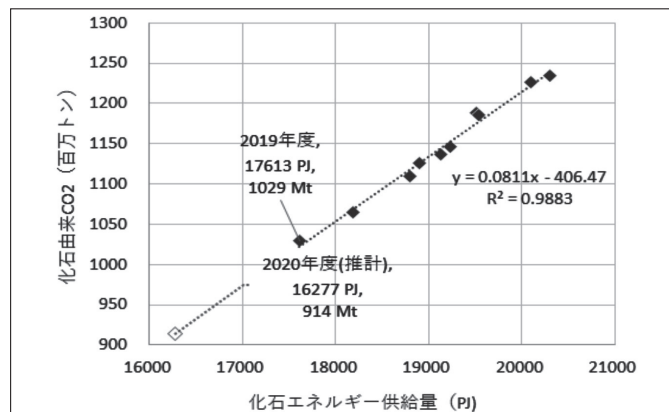
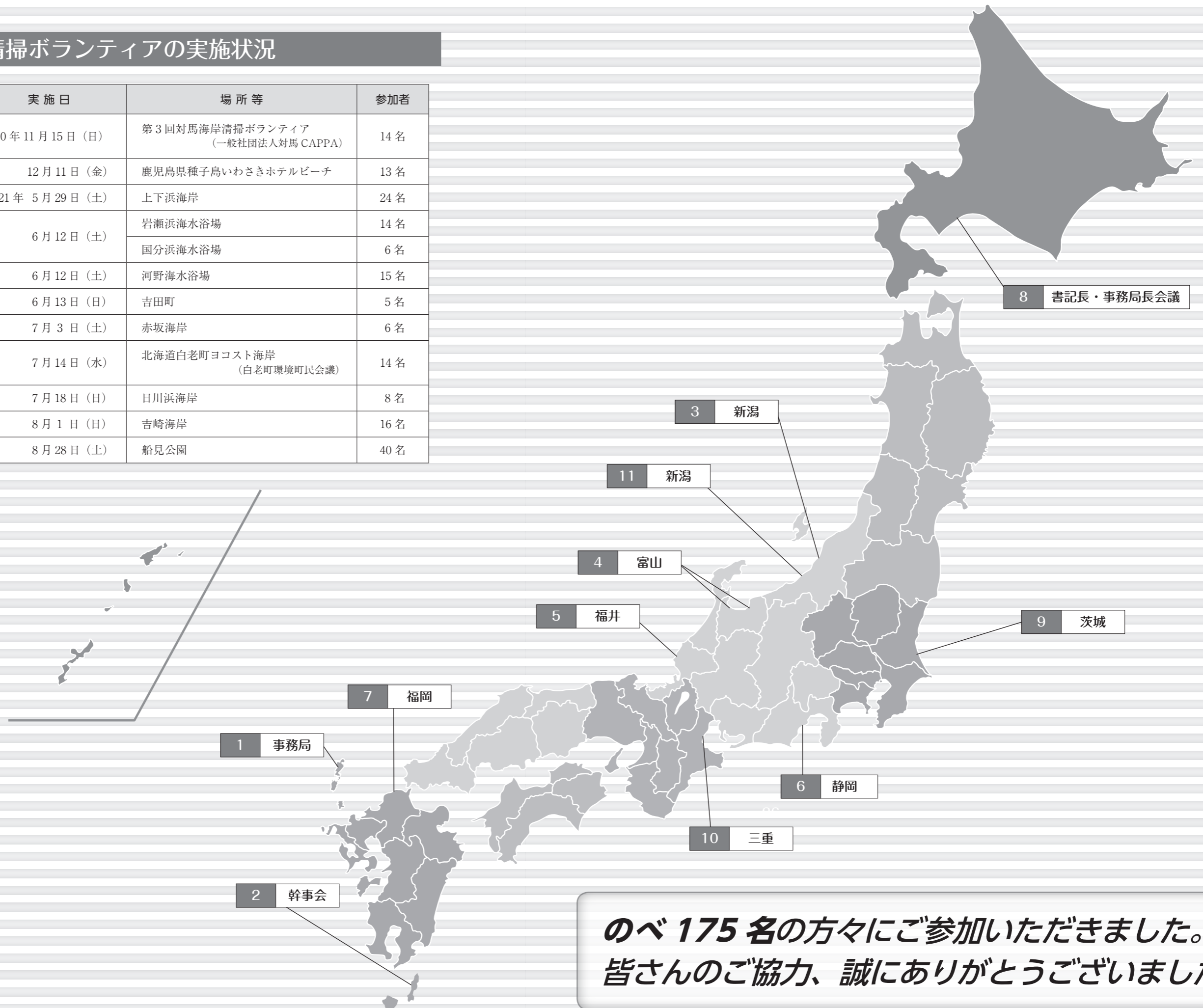


図 化石エネルギー供給量とCO2排出量

30年度▲46%の達成に向けては、巣ごもるぐらいじゃどうにもならないのが現実です。やはりCO2を排出しない発電方法の比率を上げていくことが、王道です。

清掃ボランティアの実施状況

| No. | 地連等 | 実施日 | 場所等 | 参加者 |
|-----|------------|----------------|-----------------------------------|-----|
| 1 | 事務局 | 2020年11月15日(日) | 第3回対馬海岸清掃ボランティア (一般社団法人対馬CAPP) | 14名 |
| 2 | 幹事会 | 12月11日(金) | 鹿児島県種子島いわさきホテルビーチ | 13名 |
| 3 | 新潟 | 2021年5月29日(土) | 上下浜海岸 | 24名 |
| 4 | 富山 | 6月12日(土) | 岩瀬浜海水浴場 | 14名 |
| | | | 国分浜海水浴場 | 6名 |
| 5 | 福井 | 6月12日(土) | 河野海水浴場 | 15名 |
| 6 | 静岡 | 6月13日(日) | 吉田町 | 5名 |
| 7 | 福岡 | 7月3日(土) | 赤坂海岸 | 6名 |
| 8 | 書記長・事務局長会議 | 7月14日(水) | 北海道白老町ヨコスト海岸 (白老町環境町民会議) | 14名 |
| 9 | 茨城 | 7月18日(日) | 日川浜海岸 | 8名 |
| 10 | 三重 | 8月1日(日) | 吉崎海岸 | 16名 |
| 11 | 新潟 | 8月28日(土) | 船見公園 | 40名 |



のべ175名の方々にご参加いただきました。
皆様のご協力、誠にありがとうございました。

1 事務局 (第3回対馬海岸清掃ボランティア)



2 幹事会 (鹿児島県種子島いわさきホテルビーチ)



3 新潟地連 (上下浜海岸)



4 富山地連 (岩瀬浜海水浴場)



4 富山地連 (国分浜海水浴場)



5 福井地連 (河野海水浴場)



6 静岡地連 (吉田町)



7 福岡地連 (赤坂海岸)



8 書記長・事務局長会議 (北海道白老町ヨコスト海岸)



9 茨城地連 (日川浜海岸)



10 三重地連 (吉崎海岸)



11 新潟地連 (船見公園)



対馬は東シナ海を北上する黒潮が、九州南部で対馬暖流と交わり対馬海峡を通過して、日本海側に流れ込みます(図①)。この海流の影響と、入り組んだリアス式海岸の地形によりごみが滞留し、国内で最もごみが漂着する場所とされています。

対馬海岸清掃ですが、今回清掃を実施した箇所は定期的に清掃が行われているため、足の踏み場もないくらい海洋プラスチックで埋め尽くされているという感じではありませんでしたが、実は対馬でもまだ手付かずの場所が多くあり、事務局でその場所を視察しました。案の定、海岸は海洋プラスチックで埋め尽くされこれが氷山の一角であることを考えると、スケールの大きさに無力感を抱きました。(写真①)

2050年の海は海洋プラスチックごみであふれ返るとされています。自分で出来ることは小さいかもしれませんが、当事者意識を持って出来ることを出来る範囲で実行することにより、美しい海を維持していくことが可能だと思います。

対馬海岸清掃ボランティアですが、来期も継続して実施します。日程は2021年11月14～15日、2022年6月5～6日です。興味のある方は各単組の本部を通じ奮ってご参加下さい。

(化学総連 事務局次長 森 善弘)

図① (対馬海峡と対馬海流の流れ)



(Marine Challenger より引用)

写真① (手付かずの対馬海岸)



～ 2021年度イノベーションワークショップ開催報告～

去る6月23日（水）、人と技術の未来研究会主催の「2021年度イノベーションワークショップ」を開催しました。

イノベーションワークショップは、企業活動の将来の一端を担っている研究開発に従事する皆さんの日頃のご苦勞やプレッシャーに対して、少しでもヒントやモチベーション向上になるような場や情報を提供し、会社での業務効率化につなげていただくことを目的に開催しています。今回は3回目の開催となり、加盟各単組から13名の方に参加いただきました。

化学総連の寺前会長より開会の挨拶を述べた後、人と技術の未来研究会の藤村委員長（三洋化成工業労働組合 中央執行委員長）より化学総連および人と技術の未来研究会の活動について紹介しました。



化学総連 寺前会長による開会挨拶



人と技術の未来研究会
藤村委員長による活動紹介



人と技術の未来研究会
司会を務める吉田副委員長

その後、株式会社アイデミー代表取締役社長の石川 聡彦様に「DXの現状と企業における取り組みについて」と題してご講演いただきました。講演では、「DXとAIが注目されているのは、多くの業界でICT・データを活用した企業が市場から高く評価されているからである。」ということ皮切りに、実際の導入事例も交えながら、DXの現状についてわかりやすくお話いただきました。中でも特に印象に残っているのは、DX推進はプロセスのデジタル化が前提となっており、生産プロセスなどの改善からはじまり、その先に新しい付加価値をユーザーに提供するプロダクトイノベーションにつなげていくことで、本来の意味でのDXが実現するというお話です。また、DXを実現するためには①ソフトウェアの内製化②全社の巻き込み③リーダー人材の選抜がポイントであるというお話を聞き、全員が自分事として捉えて対応していくことが重要であるということを痛感しました。

今回の講演前にはDXに関して漠然としかわかっておりませんでした。講演を聞き、少しはイメージができるようになるとともに、今後企業の発展にはDXは必要不可欠なものであることを痛感しました。



講演を行う株式会社アイデミー
代表取締役社長の石川氏

講演後は、研究開発の活性化、効率化に向けた施策の情報交換や意見交換を通じて、参加者が現業で抱える悩みを解決するヒントを得ることを目的に分科会を行いました。この分科会に石川先生もご同席いただき、貴重なアドバイスを多数いただけたこともあり、大変有意義な分科会となりました。



分科会でアドバイスを行う石川氏



人と技術の未来研究会 加藤委員による閉会挨拶

参加者が全てWEB参加のワークショップを企画・開催するのは化学総連として初めての試みであり、手探りで準備を進めていきましたが、幸いにも、当日は大きなトラブルもなく、活発な意見交換を行うことができました。講師の石川社長、ご参加いただいた皆様にこの紙面をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

人と技術の未来研究会では、「化学総連ならではの活動」「研究会らしい新たな試み」に引き続き取り組んでまいります。

講師プロフィール

神奈川県横浜市出身。東京大学工学部在学中の2014年に Goods 株式会社（現 株式会社アイデミー）を創業し代表取締役社長に就任。大学卒業後、同大学院に進学した後、会社経営に集中するため中退。AI プログラミング学習サービス「Aidemy」は、2017年から約3年でユーザー数10万人を突破し、日本最大級の先端技術のラーニングサービスに成長。さらに、法人向けAIシステムの内製支援クラウドソリューション「Aidemy Business」や「modeloy」を開発・運営。また、早稲田大学リーディング理工学博士プログラムでは、AI プログラミング実践授業の講師も担当する等、多方面で活躍している。



石川 聡彦 氏

化学総連活動報告

【第2回全国地連代表者会議】

新型コロナウイルスの影響により、Web会議で開催しました。会計監査の実施依頼、各地連の活動状況、テーマアップアンケートの取り纏め結果、次年度の進め方等を説明し今年度の総括ならびに次年度の計画について共有化を図りました。

また、ボランティア活動については緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の状況を考慮した上で、活動して欲しい旨を周知しました。

会議終了後は、横のつながり醸成と意見交換の場としてオンライン懇親会を実施しました。懇親会では新型コロナウイルスの影響により活動が難しい中、工夫している点や新たな取り組みについて意見交換を行い今後の地連活動につながる有意義な懇親会となりました。

| | |
|------|---------------|
| 日 時 | 2021年5月21日(金) |
| 場 所 | Web会議 |
| 参加人数 | 26名 |



開会挨拶をする大熊副会長



集合写真



閉会挨拶をする村岡会長代理



オンライン懇親会の様子

【第98回調査担当者会議】

| | | | |
|------|-----------------|------|------------|
| 日 時 | 2021年7月6日(火) | 参加人数 | 21名(Web併用) |
| 場 所 | 北広島クラッセホテル(北海道) | 参加人数 | 12名 |
| 施設見学 | コープさっぽろエコセンター | | |

2021 春季労使交渉に関する情報交換等の他、労働条件基本台帳の改善点、2021 年度の活動振り返り及び 2022 年度の活動予定を共有し、質疑応答も含めて活発な議論が行われました。2021 春季労使交渉では、在宅勤務制度の拡充や特別保存休暇利用条件拡大など多くの単組で改善が見られました。

会議終了後は、施設見学として「コープさっぽろエコセンター」を見学しました。「コープさっぽろエコセンター」では道内で発生する廃プラ（食品トレイ）を回収・燃焼しサーマルリサイクルとして自社内の設備に活用していました。また、廃プラの有効活用を出来ることから実践していたことに感銘を受けました。



開会挨拶をする竹内幹事



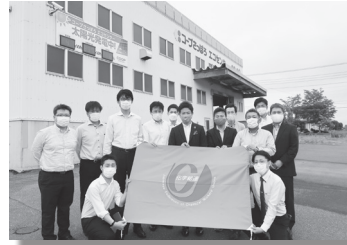
Web参加者の様子



現地参加者の様子



コープさっぽろエコセンター施設内



コープさっぽろエコセンター集合写真

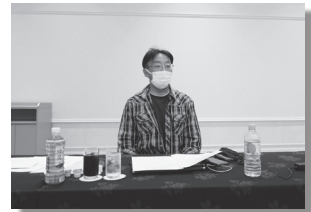
【第3回書記長・事務局長会議】

| | | | |
|------|-------------------|------|------------|
| 日 時 | 2021年7月14日(水) | 参加人数 | 20名(Web併用) |
| 場 所 | グランドホテルニュー王子(北海道) | 参加人数 | 13名 |
| 施設見学 | ウポポイ(民族共生象徴空間) | 参加人数 | 13名 |
| 海岸清掃 | ヨコスト海岸 | | |

2022年度テーマアップアンケートの共有と2021年度活動の振り返り及び2022年度の活動予定について共有を行い、質疑応答も含めて活発な議論が行われました。テーマアップアンケートでは「人材の育成方法」、「DXを用いた組合業務効率化」などが挙げられ2022年度の活動につなげて行きたいと思えます。

施設見学は、ウポポイ(民族共生象徴空間)を見学しました。ウポポイはアイヌ文化を復興・発展させる拠点として2020年7月に設立されました。アイヌ文化は伝承者の減少により存立の危機にある課題を知り、将来に向けた先住民族の尊厳を尊重し、差別のない多様で豊かな社会構築が必要であると思えました。

海岸清掃はヨコスト湿原にあるヨコスト海岸で実施しました。海岸清掃ではヨコスト湿原の環境保全活動を実施している「白老町環境町民会議」会長の中野様、事務局長の佐藤様にご同行いただきました。胆振地方の海岸清掃は初めてでしたが、ヨコスト海岸にも多くの海洋プラスチックゴミが漂着していました。またレジヤーに関連したゴミ(BBQなど)も散見されました。最後に会長の中野様から「レジヤー後のゴミについても持ち帰るようお願いしたい。」とご教示をいただいた後、「今後も海岸清掃活動を継続してください。」と激励のお言葉を頂戴しました。



開会挨拶をする河村幹事



Web参加者の様子



現地参加者の様子



ウポポイ集合写真



白老町環境町民会議 会長 中野様



海岸清掃後の集合写真